

コンセプトは「とにかく楽しむ」 パラアスリートの雇用を切り口に、 社員の一体感を醸成

ギブス製品やストーマ装具など、整形外科、褥瘡・創傷、ストーマ、看護領域で事業を展開しているアルケア株式会社。2015年からパラアスリートの雇用を開始し、現在では2名のパラアスリートをそれぞれ異なった体系で雇用。また、パラスポーツ体験や講演会の講師としても派遣し、社会貢献にも尽力している。



アルケア株式会社



観戦会



体験会・講習会



ボランティア



アスリート雇用

企業情報

アルケア株式会社

【担当部署】総務広報部広報課(2020年6月末時点)

【所属人数】569名

【住所】東京都墨田区錦糸1-2-1

アルカセントラル19階

【電話】03-5611-7817

【URL】<https://www.alcare.co.jp/>



取組のスタートはパラアスリート雇用から

「夢に向かって頑張る仲間を見て、社員の頑張る力を引き出したい」という想いをカタチにするために、2015年、パラアスリートの雇用に取りかかったが、全くのゼロからのスタートだった。」と、総務広報部広報課の小竹尚美氏。



撮影：フォトグラファー 小川 和行

同社の2代目の社長が視覚障がい者だったので、みんなも受け入れやすいだろうということで、2015年に視覚障害

者柔道の北園新光選手を、2017年に車いす陸上競技の古畑篤郎選手を雇用。北園選手は競技に専念してもらうアスリート勤務のみ、古畑選手は競技と勤務を兼務するデュアルキャリアとして、それぞれ同社で活動している。



経営方針発表会での様子

パラアスリートの雇用を皮切りに、大会の観戦・応援、パラスポーツ体験や講演会を開催したが、「なかなか全社員を取り込めない」と小竹氏は感じていた。だが、2018年、応援用マフラーを全社員に配布。毎年7月に行われる経営方針発表会で、全員がタオルをかざしながら「頑張るぞ」と氣勢を上げたとき一体感が生まれ、

それがターニングポイントになった。

さらに、社員を巻き込むための施策として、「S&C(スキルアップ&コミュニケーション・コラボレーション)」という社内制度を活用。これは、半期に1度以上、業務以外のことにより部署単位で取り組もうという制度である。パラスポーツ体験やパラアスリートとの交流会などを開催する場合にも、こちらの制度で補助を行っている。例えば千葉工場では外部講師を招き、社員全員で「ユニバーサルマナー検定」を受講するなど、積極的な活用がされている。

地域や社会だけでなく、 事業にも貢献する講演活動

同社が最も力を入れている取組が、小・中・高校で行うパラアスリートによる講演や授業である。オリパラ教育・人権教育・キャリア教育とアプローチを変えながら学校ごとに内容をカスタマイズし、前半は講演、後半は体験メインという形で実施している。地域や社会貢献にもなり、パラアスリートにとってもやりがいになっているという。



講演活動の様子

「講演活動は社会貢献にはなっていたのですが、なかなか事業につながらないことが多かったんです。そこで、患者会や取引先の講演会にも参加させていただき、この活動が、社会的にも事業としても意味のあることだと繰り返し丁寧に説明してきて、ようやく社員一丸となった感じがしています。」(小竹氏)

楽しさを共有することで、 つながりを強固に

新型コロナウイルスの影響を受けながらも、同社は前

向きに活動を続けている。例えば、オンライン講演会の開催や、社員の運動不足やパラアスリートとの交流が途絶えてしまうことを防ぐための動画配信、さらには社内SNSを積極的に活用している。

「北園が視覚障がい者のこと、古畑が車いす利用者のことを話す際にやはりリアルな話が多く、心に響きます。パラスポーツ支援を検討している企業には、ぜひ実際の体験を通して、パラスポーツを楽しんでほしいなと思います。」(小竹氏)



小竹氏

「現在では他社から『教えて欲しい』と問い合わせをいただくようになりました。お互いに情報を交換しあえるネットワークも構築でき、こういった活動を通して啓蒙できるのがいいなと思っています。TEAM BEYONDにはパラアスリートやパラスポーツを支援している他社の事例を紹介したり、他社とのつながりが得られる機会の提供を期待しています。」(小竹氏)

今後の取組について

未来を担う子供たちの教育に力を入れていきます。パラアスリートが自ら障がいや挫折を乗り越え夢を実現してきたストーリーを通じて、あきらめずに努力する大切さや夢を叶える方法を伝えていきます。また、パラスポーツやパラリンピックの魅力を実際の体験を通じて伝えることで関心を高めていきます。